

県下の交通事故

(平成12年8月20日現在)

区分	発生件数	死者	傷者
平成11年	4,014件	48人	5,332人
平成12年	4,489件	45人	5,860人
比較	+475件	-3人	+528人



◇第134号◇

発行所
〒400-0064 甲府市下飯田一丁目13-23
財団法人 山梨県交通安全協会
山梨県交通安全活動推進センター
TEL.(055)-232-4682
南甲府交通安全協会

事故急増 防止へ県民一丸

秋の全国交通安全運動が九月二十一日から三十日までの十日間、全国一斉に行われます。この運動は秋の行楽シーズンを迎え、交通量が増加し、交通事故が多発する恐れがあることから、県民一人ひとりに交通安全知識を普及するものです。また交通安全思想の高揚を図ることも、交通ルールの順守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより、交通事故の減少を目指します。



21日から秋の全国交通安全運動

県内の交通事故による死者数は、八月二十日現在四十五人で、前年同日比で三人減少しているものの全事故の発生件数は四千四百八十九件、負傷者は五千八百六十八人でそれぞれ四百七十五件、五百二十八人増加するなど、厳しい状況にあります。毎年九月以降、年が押し詰まるにつれて交通事故が増加しています。この運動を契機に、県民一人ひとりが交通事故防止の主役となって一層の注意を払い、交通事故を一件でも減少させましょう。

◆七月末現在、県内交通事故のうち高齢者の交通事故は死者十四人で、全死者の三二・八パーセントで高率となっています。特に歩行中の事故が目立ち、秋の深まりとともに日没時間が早まり歩行者が見えにくくなりますので、十分注意し、外出する時は反射材を着用して下さい。また、運転者は「高齢運転者標識」を付けた自動車や高齢歩行者の保護を図り、思いやり運転に努めましょう。

◆高齢運転者は交通安全教育や運転適性診断を積極的に受け、自分の運転適応力を把握し、身体機能の変化に応じた適切な運転を心がけましょう。

◆シートベルトの着用率は年々増加していますが、まだまだ着用していない車を見かけることがあります。運転者自身はもとより、同乗者に対してもチャイルドシート、シートベルトの着用を促していきましょう。

◆飲酒運転は、自己管理によりなくすことができません。危険性、違法性、責任の重大性、自他にも及ぼす影響について家族、職場などで話し合ひましょう。

◆飲酒運転は、自己管理によりなくすことができません。危険性、違法性、責任の重大性、自他にも及ぼす影響について家族、職場などで話し合ひましょう。

◆県内の事故状況を見ますと、交差点、カーブの交通事故が全国と比較して非常に多くなっています。しかし現実には、この意味の違いをよく理解していないため、多くの人が交通事故に遭っていることは意外知られていない。

◆具体的な事例の一つを紹介すると、読者を含めて多くのドライバーが車を運転中、遠方の信号機が青色の場合、どのような運転の措置を講ずるだろうか。ある人は信号が青色のうちに交差点を通過しようとする手前で加速し、ある人は交差点に進入する前に信号が変わる恐れがあることを予測して減速する。

◆その結果が、信号機のある交差点での追突事故を発生させている。その傾向は、甲府バイパスなど直線で、見通しがよく、しかも複数車線の道路に多く発生している。

◆交通ルールを正しく理解していないために発生する事故の一つである。

- ### 運動の重点
1. 高齢者の交通事故防止
 2. チャイルドシートとシートベルトの着用の徹底
 3. 飲酒運転の絶滅(県独自)
 4. 交差点・カーブの交通事故防止(県独自)

交 差 点

「赤は止まれ」「黄は注意」「青は進め」交通信号機の意味について、幼稚園児からお年寄りまで、ほとんどの人たちがそう理解している。

▼ところで、信号の正しい意味について道路交通法で確かめると、法で定める信号の意味は「赤色・黄色」については「止まれ・注意」の命令規定となっているのに対し、「青色」については「進行することができ」と命令ではなく、進むことができるかどうかは、交差点の状況次第ということになっている。

▼しかし現実には、この意味の違いをよく理解していないため、多くの人が交通事故に遭っていることは意外知られていない。

▼具体的な事例の一つを紹介すると、読者を含めて多くのドライバーが車を運転中、遠方の信号機が青色の場合、どのような運転の措置を講ずるだろうか。ある人は信号が青色のうちに交差点を通過しようとする手前で加速し、ある人は交差点に進入する前に信号が変わる恐れがあることを予測して減速する。

▼その結果が、信号機のある交差点での追突事故を発生させている。その傾向は、甲府バイパスなど直線で、見通しがよく、しかも複数車線の道路に多く発生している。

▼交通ルールを正しく理解していないために発生する事故の一つである。

「弱者」対策などが重点

山梨県下の交通事故の特徴として、アルコールの影響で「危険に対する認知力や判断力の低下」がハズレ、ブレーキなど操作能力の低下」といった複合作用が生まれ、危険な運転になり、交通事故に結びつくことになっています。

本県の飲酒運転が多い背景については①各種会合など飲酒の機会が多い②山間部

飲酒運転は故意犯

県警交通企画課長 大森 勲

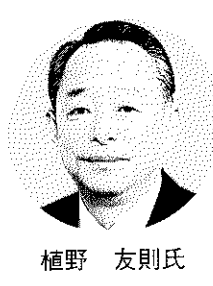


これに対し違反者は「少ししか飲まなかったから運転した」「翌日の出勤のことを考えてつい運転した」などと釈明します。しかし、その飲酒運転で検査されると、飲酒運転をなくすためには、必ず酒酔い運転が保険の対象外であることが明記されていることです。

飲酒運転をなくすためには、運転者が飲酒運転の悪質性、危険性、処罰の重さ、事故を起こした場合の責任の重大性を再認識し、飲酒運転は絶対しないという強い意志を持つことです。意志がしっかりしていれば、警察の取り締まりがなくても、飲酒運転をゼロにすることは可能です。

飲酒運転による事故は、被害者、遺族、そして加害者の家族を地獄に落とし、県民総ぐるみで飲酒運転追放に協力をお願いします。

植野氏に警察協力章



植野 友則氏

県交通安全協会の植野友則理事は七月三日、県警本部長室で、警察協力章を中沢見山県警本部

長から伝達されました。警察庁長官から部外者に對して贈られる最高の表彰です。

この表彰は、警察活動で塩山交通安全協会のメンバーとなり、警察職員と協力してセンサーライオン引き、カーブミラーなど、部外功労者に毎年贈られるもので、昭和六十三年の創設以来県内では十四人の受賞となりました。植野氏は、二十代半ばに県交通安全協会の参与理事として、県下の交通安全のために尽くしてこられた。

塩山安協の副会長、会長を務め、同時に県安協評議員、理事、副会長を歴任しました。現在は、

安協活動に長年尽力

困った時はここに相談

① 警察

交通事故は、加害者も被害者も、ともに「被害者」になるといわれています。県内には、事故当事者の経済的、精神的苦痛をサポートするため、行政や民間にさまざまな相談機関があります。万が一の時に役立つように、各機関の相談内容などをシリーズで紹介していきます。

交通事故の発生件数は、自動車台数の著しい増加や使用の多様化を背景に年々増加しています。昨年の全国の交通事故による死傷者は、百六万人と史上最高を記録し、その傾向は今後も続くものと推定されています。

交通事故の増加により、多くの県民の尊厳、生命、身体が脅かされるとともに経済的な損失も大きいものがあります。シリーズでは、さまざまな面で事故当事者をサポートするの目的で、第一回は「警察の対応」です。

情報提供に連絡員制度 救済・援助 手引き配布 捜査段階で適切な対応

それらの人たちは交通事故による肉体的、精神的、経済的な被害に苦しんでいます。交通事故の被害者や遺族の救済は、主に生命、身体、財産上の被害、事故後の経済的被害などが問題とされてきました。このため、行政機関などによる被害者救済の施策もこの種の被害に對する中心でした。しかし近年は、精神的な被害の救済についても国民の関心が高まっています。

交通事故被害者がおむる精神的被害は、殺人などの犯罪と何ら変わりありません。むしろ「ある日突然」肉親を交

安全運転管理者の講習始まる

県交通安全協会は、山梨県公安委員会から委託を受け「安全運転管理者等法定講習」を7月から開始しました。この講習は、道路交通法に定められたもので、県内の事業所などから選任された安全運転管理者、副安全運転管理者を対象に行われるものです。講習の時間は、正午からとなっていますので、日程の調整をお願いします。また、駐車場確保が困難な会場もありますので、できるだけ公共輸送機関を利用するか、相乗りをお願いします。

講習地域	実施年月日	会場
甲府	12.1.1.16(内)	敷島総合文化会館
	12.1.1.17(内)	敷島総合文化会館
	12.1.1.21(内)	敷島総合文化会館
	13.1.1.1(内)	敷島総合文化会館
	13.1.1.2(内)	シティプラザ紫玉苑
	13.1.1.6(内)	山梨自治会館
	13.1.1.8(内)	シティプラザ紫玉苑
	13.1.1.9(内)	山梨自治会館
	13.2.1.1(内)	山梨自治会館
	13.2.1.6(内)	シティプラザ紫玉苑
	13.3.2.2(内)	山梨自治会館
	南甲府	12.1.2.1(内)
12.1.2.5(内)		山梨自治会館
12.1.2.7(内)		山梨自治会館
12.1.2.8(内)		山梨自治会館
13.2.2.2(内)		山梨自治会館
13.2.2.8(内)		シティプラザ紫玉苑
13.2.9(内)		シティプラザ紫玉苑
13.2.1.3(内)		シティプラザ紫玉苑
13.2.1.5(内)		シティプラザ紫玉苑
13.2.1.6(内)		シティプラザ紫玉苑
13.2.2.0(内)		山梨自治会館
13.2.2.2(内)		山梨自治会館
13.3.2.3(内)	山梨自治会館	
小笠原	12.7.1.4(内)	小笠原警察署
	12.8.2.4(内)	小笠原警察署
	12.9.7(内)	小笠原警察署
	12.1.1.1.0(内)	小笠原警察署
韮崎	12.8.2.9(内)	双葉町民会館
	12.9.8(内)	双葉町民会館
	12.9.1.2(内)	双葉町民会館
	13.3.1.3(内)	韮崎警察署
長坂	12.8.3.1(内)	高根町農村環境改善センター
	12.9.5(内)	高根町農村環境改善センター
	12.1.1.2.4(内)	長坂警察署

講習地域	実施年月日	会場
諏沢	12.8.1(内)	増穂公民館
	12.8.2.2(内)	増穂公民館
	13.3.2(内)	諏沢警察署
南部	12.8.8(内)	南部警察署
	12.8.1.0(内)	身延町総合文化会館
	12.8.1.1(内)	南部警察署
市川	13.3.6(内)	南部警察署
	12.8.1.7(内)	市川警察署
	12.8.2.5(内)	市川警察署
石和	13.3.8(内)	市川警察署
	12.7.1.3(内)	石和警察署
	12.7.1.8(内)	石和警察署
日下部	12.8.3(内)	石和警察署
	13.2.2.3(内)	石和警察署
	12.7.2.7(内)	日下部警察署
塩山	12.8.4(内)	日下部警察署
	13.2.2.7(内)	日下部警察署
	12.7.2.1(内)	塩山中央公民館
都留	12.7.2.5(内)	塩山中央公民館
	12.7.2.8(内)	塩山中央公民館
	13.3.1(内)	塩山警察署
富士吉田	12.1.0.6(内)	都留文化ホール
	12.1.0.1.0(内)	都留警察署
	12.1.0.1.2(内)	都留文化ホール
大月	13.3.1.6(内)	都留警察署
	12.1.0.1.7(内)	富士吉田市民会館
	12.1.0.1.9(内)	富士吉田市民会館
上野原	12.1.0.2.0(内)	富士吉田市民会館
	12.1.0.2.4(内)	富士吉田市民会館
	12.1.0.2.6(内)	富士吉田市民会館
上野原	12.1.0.2.7(内)	富士吉田市民会館
	12.1.0.3.1(内)	富士吉田市民会館
	12.1.1.2(内)	富士ヒジターセンター
上野原	12.1.1.7(内)	富士ヒジターセンター
	12.1.1.3.0(内)	富士吉田市民会館
	12.9.1.4(内)	大月市民会館視聴覚室
上野原	12.9.1.9(内)	大月市民会館視聴覚室
	13.3.1.5(内)	大月警察署
	12.1.0.3(内)	上野原町民会館
上野原	12.1.0.5(内)	上野原町民会館

(注)すでに終了した講習日程についても掲載してあります。予定日に受講されていない管理者は、都合の良い日を選択するなどして全員を受講をお願いします。

警察の窓口

交通事故相談

○ひき逃げ事件等被害者相談ダイヤル…警察本部における交通事故の被害者担当部門(警察本部交通部交通指導課)

055・233・0374 (TEL/FAX共通)

○警察総合相談室…各種の警察相談の受け付け

055・233・9110

○各警察署の警察困りごと相談室…交通事故相談にも応じています

交通事故以外の被害相談

○性暴力110番…性犯罪被害者のための窓口

055・224・5110

○ヤングテレホン…少年の非行問題、困り事、被害の悩みなどの相談電話

ヤングテレホン甲府 055・235・4444

ヤングテレホン吉田 0555・22・4444

○痴漢など被害相談所…電車などで痴漢等の被害を受けた方の相談窓口

055・235・5396

苦痛軽減へ 多様な対応

警察は、交通事故の減少を目指し、白自体、関係団体と連携し、交通安全活動の推進、交通安全施設の整備、交通指導取締りの活動の総合的に行っています。交通事故被害者に対する支援活動の一環として、次のような取り組みを積極的に推進しています。

○交通事故被害者への情報提供
被害者連絡制度として、ひき逃げ事件の被害者の遺族、交通死亡事故の遺族を対象に、事件を担当する捜査員が、捜査状況、検挙状況、処分状況について連絡しています。

○パンフレットの作成・配布
突然の交通事故に遭遇し、驚き、困惑している被害者に対して、救済に役立つ情報を提供するパンフレットを作成・配布しています。

子供自転車大会

高根東小、互角の戦い



二輪車安全運転全国大会に出場した県代表

第35回交通安全子供自転車全国大会会場



堂々と全国と渡り合った高根東小の選手たち

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会共催の第三十五回交通安全子供自転車全国大会が八月八、九の両日、東京で開催されました。全国四十七都道府県の代表四十七チーム、百八十八人の小学生が参加し

二輪車運転大会

4選手が安全の技

全日本交通安全協会と全日本二輪車安全推進委員会共催の第三十三回二輪車安全運転全国大会が八月五、六の両日、三重県の鈴鹿サーキットで開催されました。山梨県代表は女性クラス・深澤恵子選手、高校生クラス・清水良太選手、一般Aクラス・秋山兼一選手、一般Bクラス・岩

一チーム四人で学科と実技を競い合いました。山梨からは高根東小学校チームが県代表で出場しました。梨からは高根東小学校チームが県代表で出場しました。梨からは高根東小学校チームが県代表で出場しました。

第一日は自動車会館を会場に法規、標識、自転車の安全な乗り方などの学科テストが行われました。第二日は、会場を東京ビッグサイトに移し、安全走行と技能走行テストが減点方式で行われました。高根東小学校は八巻尊元君、清水由紀さん、菊原弥恵さん、由井若枝さんが出場。この結果、全国のレベルは高く、二十五位でしたが、上位チームとの点差はわずかであり、健闘しました。

同小学校チームは、県大会が終わった翌日から夏休みも返上して練習を行いました。この間、学校の先生、父母、長坂交通安全協会、長坂警察署の関係者には大変ご苦労さまでした。来年も全国大会での上位を目指して頑張ってください。

九月九日は「救急の日」です。全国各地で救急に關連した行事が開催されます。運転免許証を取得するにも、平成五年に改正された道路交通法では、自動車学校で応急処置処置の講義を一時限と実技講習を受けることになって

います。応急処置処置を学ぶことが交通安全にも確実に結びつくという理由からです。昨年、四十五歳の男性が運転中に心臓発作によって街路樹へ衝突した事故がありました。現場に居合わせた人達は救急車を呼んだものの、男性の様子が大変気にはなりながらも、実際は何をどうしてよいか分からず何もできませんでした。結局、男性の様子を心配しながら救急車の到着を待たされたままの状態です。呼吸や循環が約七分間も停止したままの状態では、駆けつけた救急隊員も高難度実験（はみ出し禁止表示）などの整備を進めています。道路管理者サイドでは、交差点対策として夜間に自動点滅する自発光式交差点標（びよ）の整備をはじめ、交差点の隅切り、右折レーン、歩道などの道路改良、カーブ対策として薄層舗装、減速マーク、視線誘導標（デリニエーター）などの整備を重点的に推進しています。

この結果は、何よりも喜ばしいものですが、これらの施策は息の長いものです。今後とも交通関係機関、団体が一体となり、安全な道路環境づくりを目指したいと思っております。（原警本部交通規制課 課長補佐 藤原一雄）

発生、傷者ともに増加
夏の県民運動結果
平成十二年度「夏の交通安全防止県民運動」は、七月二十一日から八月二十日までの三十一日間、運動の重点を①高齢者と子供の交通事故防止②若者の無謀運転と暴走族の追放③チャイルドシートとシートベルトの着用の徹底④飲酒運転の絶滅一を目標に強力に実施され

十日までの三十一日間、運動の重点を①高齢者と子供の交通事故防止②若者の無謀運転と暴走族の追放③チャイルドシートとシートベルトの着用の徹底④飲酒運転の絶滅一を目標に強力に実施され

期間中は、県下各地で暑さと闘いながら、安協役員をはじめ交通関係団体の大勢の人たちが安全運転を呼び掛けるなどして運動を盛り上げました。期間中の事故状況は、

発生件数七百八件、死者三人、傷者九百八十二人で、昨年対比で死者は、三人減少しましたが、発生件数は五百三十九件、傷者は七百四十二人で、ともに大幅増加という残念な結果となりました。

や医師がいかに懸命に救急蘇生を行っても救命できないのは当然のことです。この交通事故現場に居合わせた人達が、救急車が到着するまでの間に心臓マッサージを施していれば、男性は救命できたかもしれないと悔やまれました。このように事故は、いつ、どこで、だれでも遭遇する状況にあります。起きてしまった事故はしかたがないことですが、その後の処理を的確に行っていれば、死亡事故とはならずすむ場合もあります。応急手当の講習会が消防、日本赤十字社などでしばしば開かれています。ドライバーはそれらの講習会に積極的に参加することを薦めます。

9月9日は「救急の日」

応急処置身に付けて

この交通安全現場に居合わせた人達が、救急車が到着するまでの間に心臓マッサージを施していれば、男性は救命できたかもしれないと悔やまれました。このように事故は、いつ、どこで、だれでも遭遇する状況にあります。起きてしまった事故はしかたがないことですが、その後の処理を的確に行っていれば、死亡事故とはならずすむ場合もあります。応急手当の講習会が消防、日本赤十字社などでしばしば開かれています。ドライバーはそれらの講習会に積極的に参加することを薦めます。

安全な道路環境を目指して

交通事故の発生は、特定の区間、場所に集中する傾向が見られます。運転ミスなどの直接的な原因のほかに、その背後には当該場所の道路交通環境も関係があると考えられています。安全な道路環境の確保のためには、道路利用者の交通ルール順守の徹底と並行して、安全な道路環境を実現することが重要な課題です。

警察では交通信号機や一時停止標識、横断歩道表示といった交通安全施設の整備を進めています。各道路管理

者や自治体も、ガードレール、街灯、カーブミラーの整備や道路改良などを行い、それぞれの立場から安全な道路環境づくりに努めています。

効果測定
先頃、対策を講じた

（原警本部交通規制課 課長補佐 藤原一雄）

自転車や原付自転車には必ず自賠責保険と任意の自動車保険をつけましょう
損害保険代理店
株式会社 **たいよう共済山梨支店**
甲府市丸の内二丁目 32-13
日東ビル4階
TEL055-228-0691

ミラー清掃や枝打ち

葦崎安協穂足支部

住民から感謝の声も

くくしている樹木の枝打ちなどを行いました。本格的な観光シーズンに入り、八ヶ岳、増富方面へ観光の車が増え、子供たちと地域住民が安全に夏休みが過ごせるよう、毎年行っているものです。作業には安協役員二十一人が参加。地域の人も良くなり、道路の見通しも良くなり、安全運転ができること好評で、毎年安全運転管理協賛会、

石和交通安全協会など主催の出発式が八月十日、同署で行われました。同署管内に勤務、居住している人が五人でチームを作り、八月十日から二十日二十五日までの百三十八日間、無事故無違反を目標とします。二回目は、二百三十人となり、千七百七十人が挑戦しています。出発式には各チームの代表者など約百人が出席。堀之内良彦署長が「職場や家庭で、だれかが出掛ける時には一声掛けて、常に安全に対する意識を持ち続けて下さい」とあいさつした後、参加者を代表して石和町役場チームの高野宏明さんが①交通の安全は命にかかるといふことを心に刻み、差点を減らす②車間距離を保つ③飲酒運転はしないとする交通安全宣言を行いました。

交通安全推進のスローガン受付中

交通安全の年間スローガンを次の要領で募集しています。

〔応募期間〕平成十二年九月三十日(必着)まで

〔募集部門・重点テーマ〕

- ◇一般部門▽運転者(同乗者を含む)に対する
- ◇交通安全の推進
- ◇安全な横断の励行
- ◇交差点での安全確認
- ◇夕暮れ夜の事故防止(反射材の活用など)

▽応募数に制限はない

▽「送り先」▽〒110-0186 東京都中央区郵便局 8691 東京中央郵便局 私書箱38号 毎日新聞社文化事業部「交通安全年間スローガン」係 03・3212・0188

▽「発表」▽平成十二年十二月上旬の毎日新聞紙上およびNHKテレビ、ラジオで発表

また、安全運転や事故防止に対する意識が浸透するよう、「県民のみならず一人一人が主役です」と明記しています。

ポスターはA4判のフルカラー印刷で、四千部を作製。管内四市町村に配布しました。

下部小児童130人
交通ルール学ぶ

○：市川安協

市川署や市川交通安全協会常務支部は、下部小児童130人を対象に交通安全教室を開きました。

同小の全校児童約百三十人が参加。同署員が小学生の交通事故の発生状況や道路の渡り方などの交通ルールについて話し、人形を使った車の衝突実験や、信号機や横断歩道を設けた模擬コースで自転車の乗り方講習も実施しました。講習後、遠藤和入児童会長が「今回学んだ交通ルールを守って事故に遭わないように」とあいさつしました。



葦崎交通安全協会(山寺嘉一郎会長)の穂足支部(篠原珍彦支部長)は七月十六日、須玉町穂足地区のカーブミラーの清掃と、標識などを見えに



炎天下で作業を行う安協役員

安全標語塔 改修し一新

○：南甲府安協

南甲府交通安全協会(山下譲二会長)と関係団体は、南甲府署にある標語塔(峡中ロータリークラブ寄贈)が老朽化したため、このほど改修しました。

同署は新平和通り沿いにあるため交通量は常に多く、走る車に対し交通安全の呼び掛けを行って

しいものとなりましたので紹介します。

- ・交通安全は、家庭から地域から
- ・きっぱりと 飲んだら乗るな、強い意志
- ・誘惑に 負けない勇気 強い意志



一新された標語塔

安協から

西暦二〇〇〇年あたり、富士吉田交通安全協会は、悲惨な交通事故のない「安全な住み良ハット」を目指して地域に密着した各種の交通安全対策を推進しています。

平成十一年の富士吉田警察管内の交通事故の発生状況は、発生七百六十三件、死者六

安全の中核として

富士吉田 湯山 喜六



人、負傷者一千七百七十三人でした。平成十年と比較すると、死者は減少したものの、発生件数、負傷者ともに約一〇パーセント増加を目的としたリーダーを推進していきたいと考えています。

富士吉田交通安全協会、本年も関係者の皆様の協力をいただきながら、各種の交通安全対策を昨年以上に推進していく考えですので、より一層の理解と協力をお願いします。

高齢者や子供支援 ボランティア募集

県警

県警察本部交通安全課、県交通安全協会、地区交通安全協会は、地域の交通安全活動に参加する「交通ボランティア」を募集しています。

高齢者や子供など交通弱者の安全のために、草の根的に活動してもらおうが目的で、活動内容は①街頭での高齢者や子供の安全な横断支援②高齢者への自宅訪問による支援③歩道の点字ブロッ

ク上の障害物整理④カーブミラーなど交通安全施設

から個人でもグループでも参加できます。

財団法人 山梨県交通安全協会経営
公認 山梨自動車学校

中巨摩郡八田村牛島1828 (免許センター内) TEL (055) 285-0752